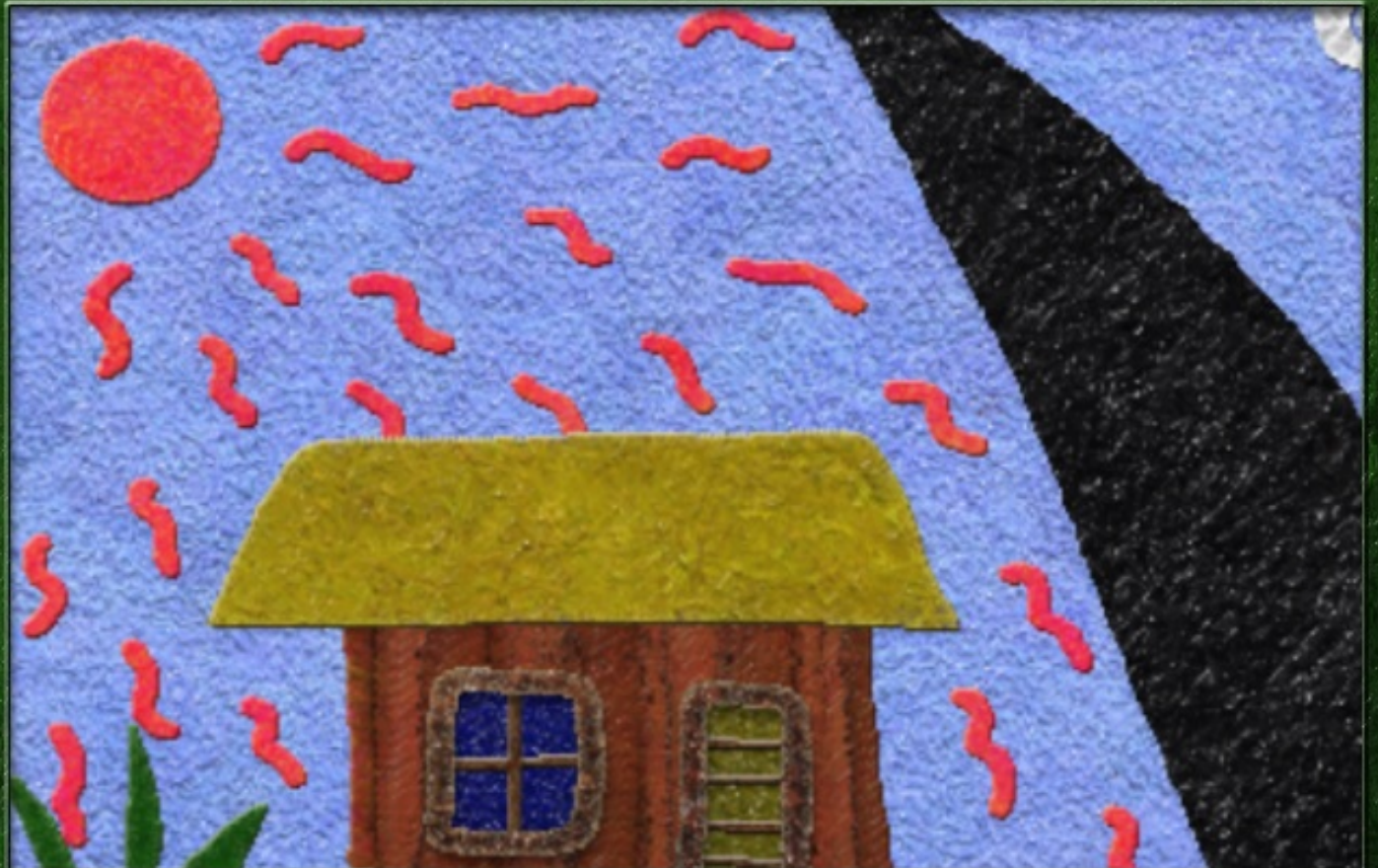


火頭山田種

の8

彦春町西



## 初めに

---

種田山頭火の自由律俳句集『柿の葉』および『銃後』より11句を選び、意味を追いながら英訳しました。

日本語表記は現代仮名遣いに直しています。

1ページに1句ずつ表示してあります。

種田山頭火について：

行乞しながら自由律俳句を作り続けた俳人です。

没年は昭和15年です。

CG画像について：

CG画像（イラスト・レタリング）は11枚あります。

制作には次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

ArtRage 3 Studio Pro（アンビエント社）

Photoshop Elements 10（アドビシステムズ株式会社）

参考文献について：

次の文献を参考にしました。

山頭火句集（ちくま文庫）

2000年6月15日 第5刷発行

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り（株式会社大修館書店）

1994年4月1日 改訂版初版発行

新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷（株式会社三省堂）

昭和50年9月15日 第1刷発行

Longman Dictionary of American English (Longman Inc.)

First printing 1983

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

『柿の葉』

"Persimmon's Leaves"



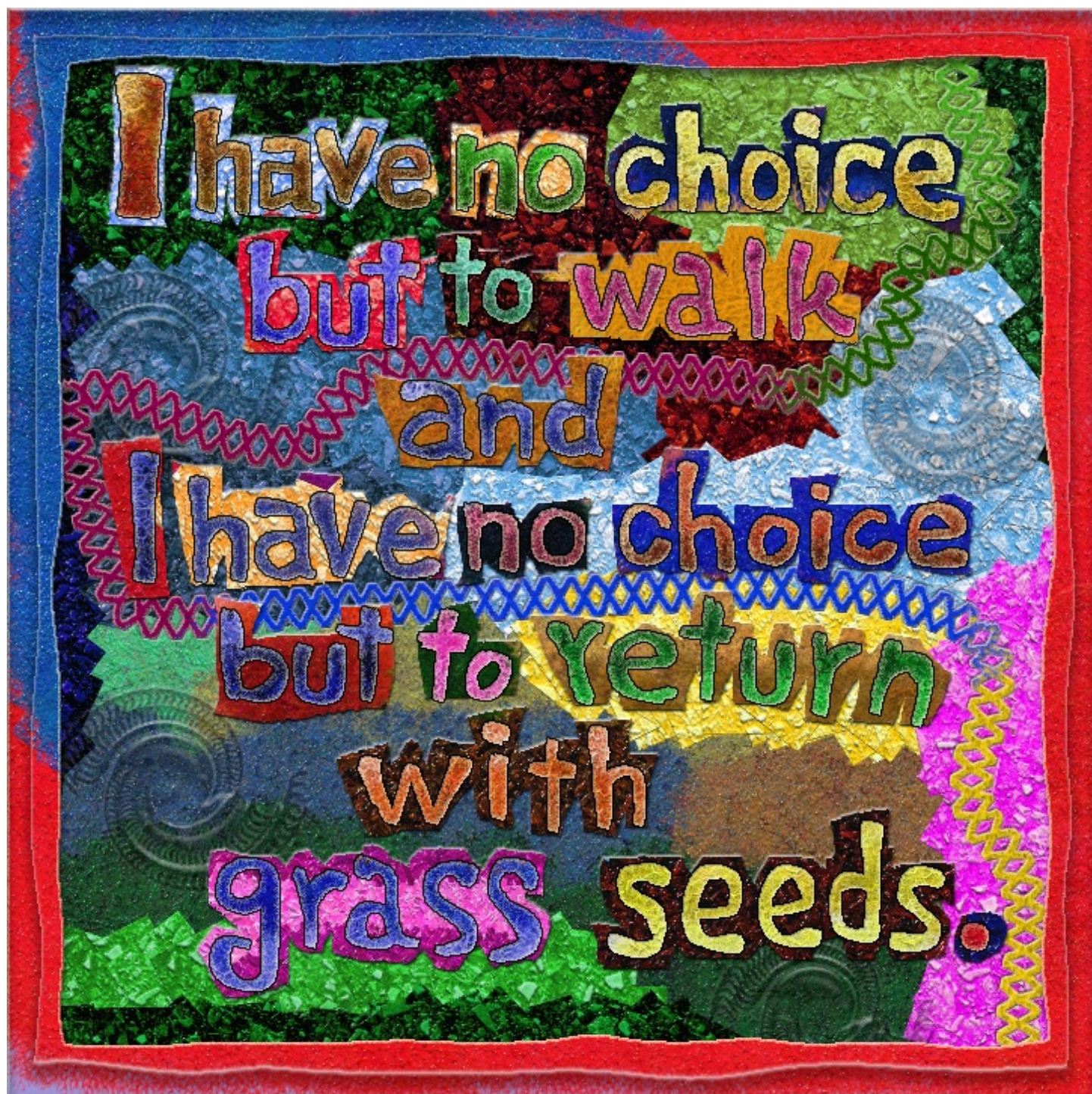
風は何よりもさみしいとおもうすすきの穂

I think that nothing is as lonesome as the wind which swings the ears of pampas grass.



からむものがない蔓草の枯れている

As there is nothing to be twined, a vine has withered.



歩くほかない草の実つけてもどるほかない

I have no choice but to walk and I have no choice but to return with grass seeds.



水に雲かけもおちつかせないものがある

I cannot settle down, like a shade of a cloud reflected on a water surface.



鴉啼いたとて誰も来てはくれない

Even if a crow caws, no one comes to me.





藪にいちにちの風がおさまると三日月

After I had stayed in a thicket during the daytime, the wind stopped and a crescent moon began to shine.

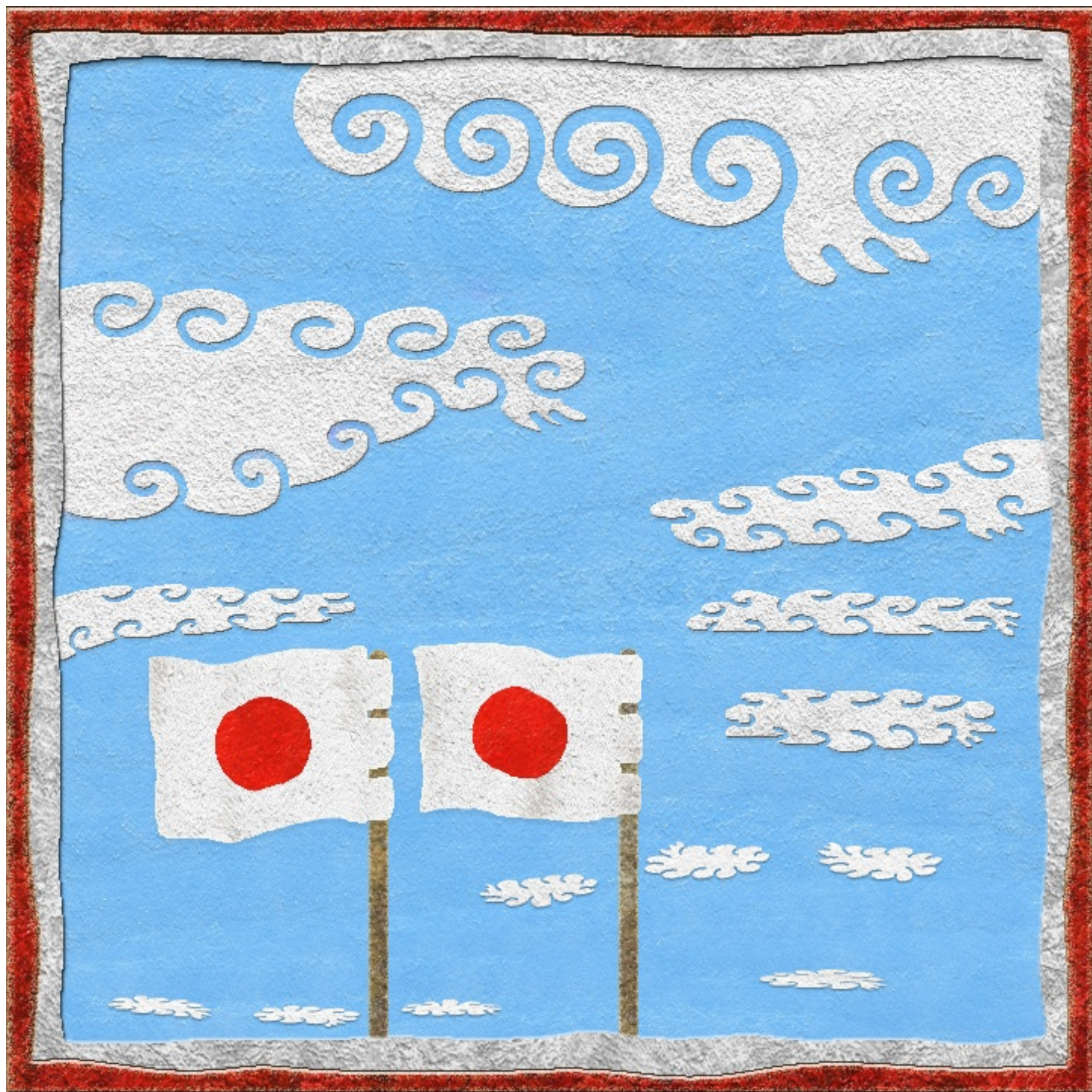


いつも出てくる蔦のとう出てきている

Flowers of coltsfoots, which shot up every spring, have shot up.

『銃後』

"The Citizens in the Wartime"



凧の日の丸二つ二人も出している

Two flags of the rising sun are flying in a wintery wind at a house, from which two have been drafted for the military service.



雪へ雪ふる戦いはこれからだという

It is snowing onto the snow and it is said that the battle hereafter will begin.



冬牡丹ほっと勇ましいたよりがあった

We had a brave news with great relief as if a wintry peony blooms.



しぐれつつしずかにも六百五十柱

The remains of six hundred and fifty soldiers return calmly in a wintery drizzle.

## 終りに

---

著者について：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。

作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

次回予定について：

山頭火の句集『孤寒』より数句を選び、英訳およびイラスト制作の予定をしております。

（2013年4月 茜町）



種田山頭火 その8

<http://p.booklog.jp/book/70360>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/70360>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/70360>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ